

# 個人保証のあり方における課題について

---

千葉銀行 審査部 黒島保樹

# 1. 個人保証の「契約時」における課題

## <中小企業向け融資の現状>

中小企業への融資取引  
~長期継続的なものであり企業と経営者の一体性を踏まえ対応判断~

### 【財務情報】

- 事業計画
- 決算情報
- キャッシュフロー

### 【非財務情報】

- 経営基盤(仕入販売先)
- 経営者情報(経営手腕・個人資産等)
- ガバナンス(情報開示姿勢等)

中小企業に対しては、代表者等の資産も勘案して  
資金需要に極力応えるよう努めている

## <個人保証「契約時」の問題点>

本研究会で示されている問題の解決や代替手法等の活用にあたって  
如何に取引企業の実態に応じて柔軟に対応するかが重要  
【画一的な対応は融資取引における混乱が懸念される】

### 【解決策の方向性】

- 各取引先企業の実態やニーズに応じて、どのような手法・対応を選択するかがポイント
- ⇒企業と金融機関の信頼関係の構築の深化に資する具体策(借手の情報開示や貸手が把握すべき情報等)について引き続き検討が必要
- ⇒経営者による信用補完や企業のガバナンスに配慮しつつ個人保証の柔軟な対応を行うためには、信頼関係の強化が大前提

## 2. 個人保証の「契約後(再生局面)」における課題

### <契約後(再生局面)の現状>

企業や経営者個人の状況等を勘案しつつ、保証債務の履行範囲を検討  
⇒特に、再生局面においては、個別事案に即したきめ細かな対応が重要

### <契約後(再生局面)における問題点>

保証人の状況を勘案しつつ…

- ①保証債務の履行に当たっては、複数債権者が同じ目線・認識のもとで対応することが重要
- ②公平性や税制との整合性に配慮した簡易な保証債務の調整プロセスが必要

### <解決策の方向性>

#### 保証債務の調整プロセス の検討・実施

- ✓ 経営者の再起に向けた法的手続きによらない手続き
  - ✓ 複数債権者の関与や個人資産の把握等
- ⇒特定調停の活用等

#### 個人保証債務の整理に 関する金融機関の 目線統一(指針の策定)

- ✓ 法人債務との一体処理
- ✓ 個人保証債務の履行基準

#### 保証債務履行時における 税務の取扱い明確化 (税務通達の発出等)

- ✓ 左記指針や調整プロセスと税務上の取扱いの関係の明確化

各方策の関係性の明確化が前提